

2019 年度 センター試験 英語筆記（本試験） 分析

全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：54 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 大問数、出題数に大きな変化はなく、出題分野・出題形式も、昨年と同じである。配点については、例年通り、読解問題の比重が非常に高く(139 点/200 点)、語彙力や素早い処理能力が必要とされた。難易度については、読解問題の一部にやや難解なものが見受けられたが、全体として「変化なし」とした。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	昨年と同様、発音問題が 3 問、アクセント問題が 4 問という出題である。出題された単語は B の問 4③の spectacular を除きすべて基本的なものであった。
第 2 問	文法・語法・会話	47 点	A が空所補充(四択)問題、B が語句整序問題、C が応答文の完成問題という昨年と同じ形式であった。応答文の完成問題は、昨年同様、文法知識に加え文脈判断が要求されるものであった。
第 3 問	文脈把握読解 語数 A. 約 420 語 B. 約 480 語	33 点	A が不要文指摘問題、B が意見の要約(ディスカッション)問題という昨年と同じ形式であった。A, B ともにやや解答根拠を特定しにくい問題があった。
第 4 問	資料読解 語数 A. 約 390 語 B. 約 150 語	40 点	昨年と同じく、情報の読み取り(問 A は表から、問 B は案内文からの読み取り)が出題された。出題形式に変化はなく、ほとんどの問題で解答根拠が探しやすかった。
第 5 問	長文読解 語数 約 650 語	30 点	物語文(父親の家庭菜園を引き継いだ娘が主人公)が出題された。英文を構成する単語や文構造は平易なものばかりなので、解答に苦勞することはなかったであろう。
第 6 問	長文読解 語数 約 580 語	36 点	様々な「道・経路」の発展が、人々の社会生活にどのような影響を与えたかを論じた文章が出題された。英文・設問ともに読みやすく、解きやすい問題となっている。